

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立北茂安小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合う力の育成に関しては、学力向上対策評価シートのマイプランの状況把握が十分ではなかった。家庭との連携強化のために実施した「家庭学習がんばろう週間」の取り組みは家庭からも高評価を得ていた。</li> <li>・つながり合う心の育成に関しては、他者への思いやり、倫理観や正義感など、更なる心の育成が今後の課題である。いじめ防止等については組織的対応が実践できた。</li> <li>・磨き合う生活の「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」に関しては、栄養の話等を通して舌手な食材も健康のために食べようという意識を持たせることができた。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>未来を切り拓く北っ子 ～共に学び、共に感じ、共に生きる児童の育成～【合言葉は、『共に』(みんなで一緒に助け合う、みんなの笑顔のために)】</p>
3 本年度の重点目標	<p>◎学び合う力、つながり合う心、磨き合う生活を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北っ子一人ひとりに役割を持たせ、出番を与え、認め、励ます教育活動の推進</li> <li>・合言葉『共に』につながる「優しい心、強い心」を育む教育活動の推進</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
●学力の向上	●全教職員による共通理解と確実な実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員の割合が、85%以上	マイプランの成果指標をもとに、学年で実践交流等話し合いを持ち、日々の実践に生かす。	B	マイプランの活用については78%の教員が実施し、振り返りを実践に活かしていると答えた。しかし、同学年内での情報共有等の場が設定できていないので、自己評価ににくい面もあったようだ。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○子どもによる授業評価を学期1回程度行う	「子どもによる授業評価」や「北っ子スタンダード」、「授業改善リーフレット」をもとに、児童が主体的に取り組む授業、学習内容が分かる授業、力がつく授業を行う。		A
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合が、70%以上	授業では、ふり返りの時間を設け、これからの自分の生き方について考えさせることで、思いやりや善悪の判断、生命の尊さについて気付かせ、他者と共によりよく生きようとする心を育む。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、道徳の時間が好きだと答えた児童が92%、授業の中で、思いやりや命の大切さを実感し、今後の生活に生かそうと思えた児童が97%(どちらも、まあまあ好きだ、まあまあ思えたを含む)となり、目標達成できた。今後も日々の教育活動で豊かな心の育成に努めていく。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合が90%以上	・日常的な観察やアンケートの実施による早期発見。 ・ケース会議や生徒指導協議会による早期対応と共通実践。	B	いじめ防止等について組織的な取り組みができていると思う回答した教職員が94%となり目標達成できた。 ・「しんけん集会」を実施し、各学級で人権標語を考えたり、運営委員会に「北小なかよし宣言」を考えてもらったりした。事後の児童感想の多くから思いやりの気持ちの高まりが感じられた。
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(6年生)の割合が80%以上	・将来や進路を見据え、必要な礼儀作法を身に付けさせるための『共に』マナー検定(6年生)を実施する。 ・卒業に向けて、将来の自分について具体的に考えさせるために、「夢の教室」などの取組を行う。	B	・佐賀新聞社の「ボクの夢 私の夢」で自分の夢を書いたり、卒業式での夢の発表を考えさせたりすることで、将来の自分について具体的に考えることができた。卒業文集に、将来の夢について書いている児童もいて、夢の実現に向けて意欲的に取り組もうとする態度が見られた。95%以上の児童が、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答ををしていた。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	②登校班で安全安心に歩いて登校できた児童の割合が95%以上	・HPや各種便り、メール配信により保護者への啓発と協力をお願いをする。 ・生活朝会、地区児童会、登校班長会等で、徒歩登校について指導する。	B	・声かけ事案や不審者、危険動物の出没などの情報を共有し、地域や警察との連携を図りながら、登下校時の安全向上に努めた。緊急性のある案件については、まちCOMメールを用いて、保護者へ可能な限り迅速な注意喚起および情報提供を行っている。 ・年度始めや、指導の必要性が生じた際には、登校班の事情を聞き取り、直接の指導を行った。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限(月45時間を超えない)を遵守する。	・削減と「効率化」を視点に行事及び業務の精選と見直し、ICTの活用を進める。また、会議等を通して職員の見解を反映させながら方策を改善していく。 ・19:00に施設完了する。(金曜は18:00) ・時間外勤務の上限を超えた職員には、聞き取り等により勤務実態の把握を行い、改善に努める。	B	・各種資料の紙媒体から電子媒体の変更は大幅に進んだ。しかし、内容によってどの媒体が適しているかには違いがあるので、それぞれに合った方法を業務を遂行することが求められた。 ・職員の協力や意識の変化に伴い概ね予定の時刻で施設できるようになった。業務の「削減」「効率化」の取組とあわせて施設時刻の厳守を求めている必要がある。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
○校内研究の充実	・プログラミング的思考を育む授業づくり(全教科等で)	・プログラミング的思考を育む授業実践を行った教職員の割合が100%	・プログラミングの思考を育む授業づくりに関する研究実践の成果を地域に伝え広めるための講師招聘等による研究発表会の開催 ・月1回の校内研究の実施による共通理解・共通実践 ・各学年部における授業実践、授業研究会の実施	B	・研究発表会の成果を授業実践に生かすべく、教育活動全般で、プログラミング的思考、伝え合う活動を取り入れた授業実践を各学年部の研究テーマに合わせて計画的に取り組んだ。 ・専門部、学年部、特別支援部ごとに、授業作りや環境作りに関する共通理解の深化を図り、連携した授業実践ができた。 ・児童の考えを可視化したり、思考を整理したりするフローチャートの活用を進めた。また、プログラミング的思考の育成に有効なコンテンツを選定し、活用を進めることができた。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力の向上」に関しては、学力向上対策評価シートのマイプランの活用はできたが同学年内での共有が十分ではなかったため、来年度は情報共有の場を設定することが必要である。</li> <li>・「心の教育」に関しては、他者への思いやり、倫理観や正義感など、更なる心の育成が今後の課題である。いじめ防止等については組織的対応が実践できた。来年度も継続・充実をさせていきたい。</li> <li>・「健康・体づくり」に関しては、登校班での登下校について地域・保護者とともに見守り、必要に応じて具体的な指導を行うことで、児童に安全・安心な生活についての意識を持たせることができた。</li> </ul>
----------------	--